

## < 3月22日 家庭礼拝の手引き >

本日は、以下のプログラムで家庭礼拝を捧げましょう。

インターネットに接続できる方は、11時に開始する牧師の説教などをライブ配信（生放送）で見ながら礼拝を捧げることもできます。出席はできません。視聴方法は別ページに記しています。

### 1. 礼拝の進め方

礼拝プログラムは次の通りです。このプログラムに沿って、賛美を捧げ、祈り、聖書を読みましょう。説教の部分は、説教要旨を読みましょう。

### 2. 礼拝プログラム

招 詞 詩編 90 編 1-2 節

賛 美 歌 新生 377 ああ麗しきシオンの朝

主 の 祈 り

感謝の祈り

聖 書 テサロニケ I 5 章 1-11 節(新 378 頁)

メッセージ 「 信仰と愛、救いの希望 」

説教要旨を読みましょう

祈 禱

祈りの課題を読み祈りましょう

賛 美 歌 新生 557 幻をわれに

黙 禱

### 3. 祈りの課題

- 新型コロナウイルスの感染が収束し、苦しみと不安の中にある人が守られるように。安心して通常の礼拝を捧げることができますように
- 教会員、教会に連なる方々が、それぞれのご家庭で家庭礼拝を捧げ、信仰と愛と一致が守られるように
- レントの期間にあたり、主がわたしたちのために苦難を受けられたことを覚えて。主の復活を喜び、イースターを迎えることができるように
- 日本、中国、韓国をはじめ全国で感染に苦しむ人々のために。全世界の教会の礼拝のために
- 教会に連なるご高齢の方、お一人暮らしの方、施設に入所されている方のために

### 4. 説教要旨

パウロが生み出したテサロニケの教会。妨害の中で僅かな期間しかパウロは滞在しなかったにも関わらず、生まれたばかりの教会の人々は、“イエスを救い主と信じる信仰を堅く保ち、それだけでなく、愛のために労苦し、希望をもって忍耐する”、そういう信仰者となっていました。神の言葉が彼らの中で生きて働いていたのです。

前回の個所に続く3章では、テモテが彼らを訪ね、テモテはその報告をパウロにおこなった場面が描かれています。テモテの報告を聞いたパウロは、感激しました。なぜなら、テサロニケで

労苦したことが無駄になったのではないかと心配していたからです（3章5節）。そして、3章8節では、「あなたがたが主にしっかりと結ばれているなら、今、わたしたちは生きていけると言えるからです」と語りました。どんな苦難を覚えても、イエスさまの福音を聞いて信じた人々が、“主にしっかりと結ばれている”ならば、“どんな労苦も無駄ではなく、自分が生きていことに意味を持てる。わたしたちは生きています”、そう言えると、パウロは喜んでいます。

4章に入ると、神に喜ばれる生活とは、「聖なる者」となること（3節）であり、「兄弟愛」を抱くこと（9節）であるとパウロは教えます。特に、この兄弟愛については、テサロニケの人々に書き送る必要がないほどに、“互いに愛し合う”教会になっていると、パウロは認めていました。

4章の後半から、“主イエスは再び来られる”との再臨信仰が語られます。使徒言行録1章11節では、復活したイエスが天に昇っていく姿を見ていた弟子たちに、天使が「あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じありさまで、またおいでになる」と語りました。イエスは再び来られるとの再臨信仰が受け継がれていたのです。ヨハネの黙示録22章でも繰り返し、イエスが「見よ、わたしはすぐに来る」と語っています。

再臨信仰とは何でしょうか。それは、この世で迫害と苦難の中に置かれた者を救い出すために、再び救い主イエスさまが来られることを待ち望む信仰です。悪と不正に満ちた世界をひっくり返して、イエスさまの愛と正義が実現する日を待ち望む信仰です。そして、この世で自分勝手な生活など出来ないことを覚える信仰です。この世での私の生活は、神の御前に覚えられていることをいつも覚え、主の再臨の日に、全てが明らかにされることを信じ、愛と希望と真実を持って、今を生きる決意を持たせる信仰です。

今日の聖書の個所5章では、そのイエスさまの再臨の時と時期について、盗人が夜やってくるように突然来るのだ、「無事だ、安全だ」と言っているそのやさきに、突然やってくるのです。しかし、あなたがたは暗闇の中にいるのではなく、光の子となったのだから、ほかの人々のようではなく、目を覚まして、「信仰と愛を胸当てとして着け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいましょう」（8節）。イエスさまの再臨は、あなたがた、光の子には、“破滅を”ではなく、“救い”が与えられる時である。「神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによる救いにあずからせるように定められたのです」（9節）。

10節には、“主イエスさまの十字架の死は、わたしたちが主と共に生きるようになるためのものであった”と語ります。

“主の救いに与る”、“主と共に生きるようになる”、この神のご計画の中に、あなたがたは既に定められているとパウロは宣言をしているのです。

今のこの時、わたしたちにとって不安や苦悩が満ちる時、「主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渇き」（アモス8章11節）を覚える時、「既にあなたがたは主イエス・キリストによる救いにあずからせるように定められた」との宣言を励ましとして受け、目を覚まして、「信仰と愛を胸当てとして着け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいましょう」（8節）